

アナメリ がわら版

2009年

春

Vol.19



大村湾に浮かぶ西の空の玄関口 長崎空港 (大村市)

- 大村湾を元気にしたい 2 3
(長崎大学 水産学部 中田英昭 教授)
- 大村湾の力毛類 4 5
(長崎県野鳥の会 城戸俊泰さん)
- 新着情報 6
- 大村湾にくらす 7
(大村湾漁業協同組合 松田孝成 組合長)

大村湾を

元気にしたい



大村湾の環境をよくするためには、「大村湾に関心を持つこと、自然の変化や季節の移ろいに対する感性を高めることが大切です。」大村湾の環境保全に取り組む 長崎大学 水産学部 中田英昭教授にお話しをお聞きしました。

大村湾の現状はどうなっていますか

私は長崎の出身ですけれど、子どもの頃は、よく、時津へ海水浴やイタダコ釣りに出かけていました。当時とくらべると、埋め立てや護岸工事などの影響で、海の風景がずいぶん変わったというのが率直な印象です。



長崎大学 水産学部 中田英昭教授

陸から流れ込む汚濁物質（窒素・リンなどの有機物）の量が過剰になると、赤潮（プランクトンの異常発生）の原因になります。また、プランクトンの死骸などが海底に堆積し、バクテリアの働きにより分解されるときに酸素が消費されて、底層の酸素が少なくなる「貧酸素化」と呼ばれる現象が、夏場によく起こります。いわば、海底が酸欠状態になるわけです。海底の環境が悪くなれば、海の生き物に、色々な影響がでてきます。獲れる魚の量が減ったり、種類が少なくなります。

赤潮や貧酸素化など、海の環境を悪くする現象は、全国の海で見られており、大村湾にかぎった話ではありません。大村湾は、閉鎖性が強く、外海との海水交換が小さいため、陸から流れ込むものなどの影響を受けて、環境が悪くなりやすい海

といえます。

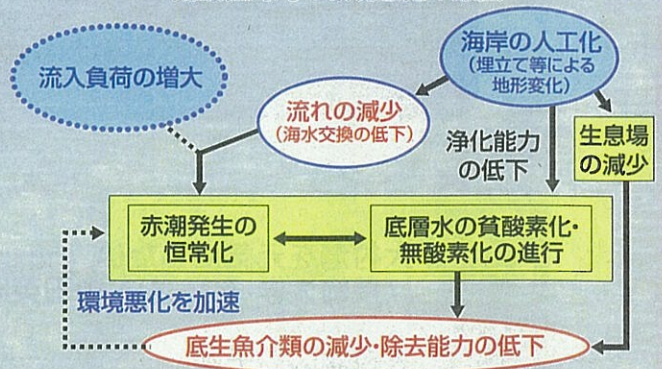
大村湾の環境変化の原因として、どのような理由が考えられますか

まず、陸からの影響があります。先ほどお話ししたとおり、私たちの生活などからでてくる汚濁物質の量が過剰になれば、赤潮や貧酸素化などの問題が起ります。

次に、埋め立てや護岸工事による自然海岸の減少の影響があります。干潟などの浅場は、海の生き物を育む大切な生息場です。自然は、自らが浄化しようとする力を持っています。浄化のための重要な役割を担う生き物の生息環境が悪くなったことが、海の環境悪化の原因のひとつです。

このほかにも、地球温暖化などの地球規模の環境変化も要因として考えられます。

閉鎖性海湾の環境悪化の原因



大村湾の環境をよくするためには、どのような方法が考えられますか

海の環境改善の方法としては、例えば、貧酸素状態で酸素が少ない場所に空気を送り込むとか、環境が悪くなった海底に砂をかぶせる等がありますが、効果が狭い範囲に限られたり、長続きしな

かったりという問題があります。

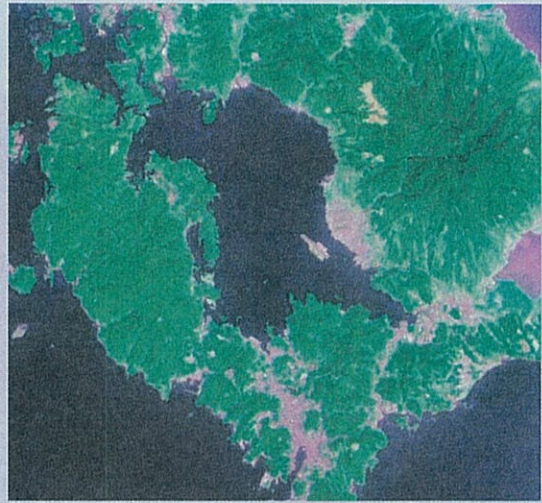
私は、海の環境をよくするためには、時間はかかりますが、やはり、海の生き物の持つ浄化能力を活用すべきだと考えています。海の生き物は、窒素やリンなどの過剰な有機物を消費してくれますから、生き物が、すみやすい場所を増やしてやることが、海全体の環境をよくすることにつながります。そのためには、海の環境の変化はもちろん、生き物の種類や数がどのように変化しているのか、海の現場の様子を知る必要があります。残念ながら、生き物の数や種類の変化についての詳しいデータはほとんどないのが現状です。

また、漁業やカキなどの養殖業を盛んにし、物質循環をよくするということは環境保全の面からも非常に大切なことです。赤潮や貧酸素化などの海の環境を悪くする問題のメカニズムを解明することは、大学の役割ですが、海の環境をよくしていくには、事業者、地域住民の皆さん、行政など多くの人たちの協力と連携が大切です。

大村湾の環境をよくするために、 私たちに出来ることは何でしょうか

まず、何よりも大村湾に関心を持つことが大切だろうと思います。海の環境を回復させるには、時間がかかります。ひとつの世代で完結するような話ではありません。世代を超えた取り組みが必要です。そこで、大切になるのが、教育だと思います。学校教育の中で、実際に、海に接し自然や環境を調べ考える、それによって、大村湾を修復するための人材の底辺を拡大することが必要です。

最近、私たちの日常生活と海の自然との距離が遠くなってきたように思います。そうなれば、私



大村湾 [写真提供 JAXA(宇宙航空研究開発機構)]

たちの持っている自然の変化を感じ取る感性や感度が鈍くなってきます。

長崎はまわりを海に囲まれた所ですし、特に大村湾は、私たちの一番、身近な海です。大切にしていきたいと思います。



中田英昭教授と研究室の学生さん

※先生の温厚な人柄、そのままの温かい感じのする研究室でした。

[長崎大学水産学部ホームページ]

<http://www.fish.nagasaki-u.ac.jp/index-j.htm>

※地域の環境を守るためには、地域の現状を知ることが大切です。

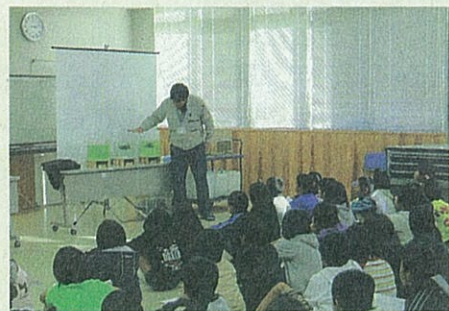
長崎県環境保健研究センターでは、環境学習への講師の派遣や環境活動に関する技術的助言などを行っています。地元で環境学習を行いたいと希望する方は気軽にご相談ください。

長崎県環境保健研究センター（企画情報課）

大村市池田2丁目1306番地11

電話番号：0957-48-7560

ホームページ <http://www.pref.nagasaki.jp/kanhoken/>



環境学習会のようす

大村湾のカモ類

冬になるとカモ類をはじめとした多くの渡り鳥が、その羽を休めるために、大村湾に飛来します。日頃から、大村湾や諫早湾などで野鳥観察を続けている長崎県野鳥の会 城戸俊泰さんに、お便りを寄せていただきました。

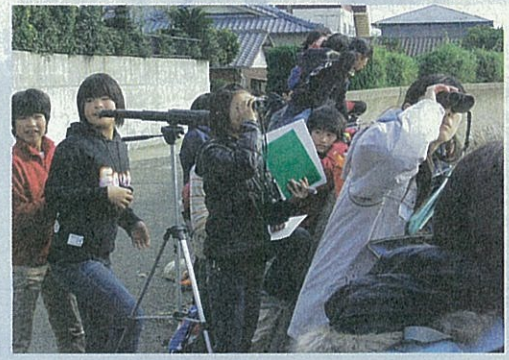
長崎県の中央に位置する大村湾には、多くの野鳥が生息しています。特に冬場は渡り鳥である多くのカモ類が、遠くシベリアなどから飛来して湾内で、エサ取りをしたり休んだりしているのです。

大村湾近くの身近な公園や近くのダム湖、溜池なども合わせると、今年1月中頃に、長崎県野鳥の会の会員が生息調査をしたカモ類の種類は13種約3,000羽を数えました。他の小鳥類も含めるとまだまだ数値的には多くなります。

確認されたカモ類は、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ウミアイサ、カワウです。

その他、今回の調査では対象としなかった鳥類で、通常、見ることができる野鳥としては、ウミウ、カンムリカイツブリ、カイツブリ、オオバン等の水鳥に加え、スズメ、カワセミ、シロハラ、ツグミ、イソヒヨドリ、ヒヨドリと陸上の鳥は、数えあげればきりがありません。しかしながら大村湾は、風光明媚が故に宅地開発が進み、公園化され、護岸が整備されているのが現実です。大村湾の面積に比較しては、生息している鳥類の生息数は少ないといえます。今回の調査で、カモ類のうち、生息数の多かったものは、ヒドリガモの

1,016羽、ホシハジロ230羽、マガモ220羽です。ここで長崎県には、もう1ヶ所カモ類が多く飛来する場所があります。参考までに比較をいたしました。皆さまもよくご存じの諫早湾及び諫早湾干拓調整池です。ここではスズガモが、今年も43,000羽数えることができました。もちろんその他にも多くのカモ類が冬を越しているのです。ゆうに大村湾の14倍以上のカモ類が飛来していますね。諫早湾周辺にはそれだけたくさん食べさせることの出来るエサがあるという証ではないかと思えます（エサは主に海草類です）。



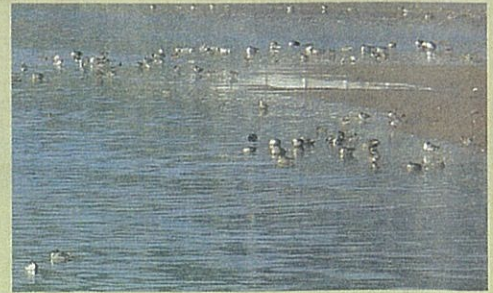
野鳥観察会（大村湾）のようす

風光明媚が故に開発が進んだ大村湾は、カモ類にとってエサ場が少なくなり、安心して休む（人間や猛禽類から身を隠すことができる場所）ことのできる場所が少ない所ではないでしょうか。た

大村湾で新たな鳥獣保護区を指定します

鳥獣保護区とは、野鳥や哺乳類の保護を図るために指定される区域です。現在、大村湾では、大村公園や川棚町大崎半島、時津町前島・鷹島などで指定されています。他にも、大村湾には良好な野鳥の生息地がたくさんあります。

長崎県では、大村市の鈴田川河口において、渡り鳥の保護を図るため、平成21年度に新しい鳥獣保護区の指定を計画しています。



鈴田川の野鳥（大村市）

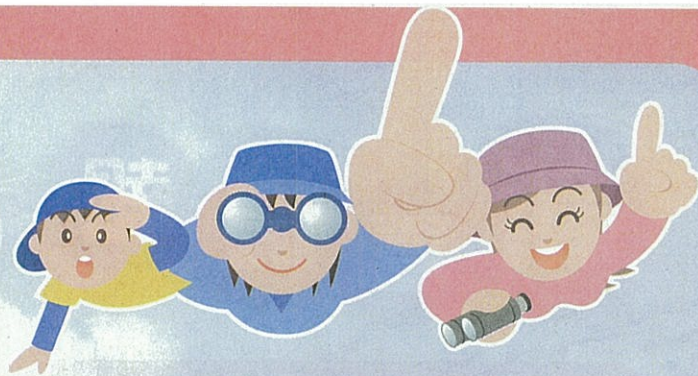
だ、エサが少ないからと言って、鳥たちにパンくずなどを与えないでほしいと思います。あまり人間に馴れてしまい渡りを忘れてしまった鳥たちもいるそうです。渡りを忘れると繁殖行為ができなくなり、種の維持ができずに滅びることになりかねません。

県民の宝として自然を育んでいきたいものです。これからも、風景を愛でながら、いろんな動植物たちと共存できる美しい大村湾にしたいですね。

なお、長崎県野鳥の会では、定期的に野鳥観察会を実施しています。興味を持たれた方は、ホームページをご覧ください。

【長崎県野鳥の会のホームページ】

<http://www.d7.dion.ne.jp/~babak/birds/indexbirds.htm>



長崎県野鳥の会 城戸俊泰さん

大村湾で見られる野鳥たち



ウミアイサ

大村湾でよく見かけます。



カワウ

河川から海岸まで広く分布しています。



カンムリカイツブリ

頭に冠をのせた様に見えます。



マガモ

頭と尾に特徴があります。



オナガガモ

長い尾が特徴です。



ヒドリガモ

頭に金色の筋があります。



オシドリ

県の鳥に指定されています。



ハシビロガモ

幅広のくちばしが特徴です。



※県のホームページで、野鳥の動画が見られます。
<http://www.pref.nagasaki.jp/sizen/2yatyou/birdidx.html>

新着情報

大村湾流域の
最新情報を
お知らせします。



ハウステンボスに新たな魅力(「長崎次世代エネルギーパーク」誕生)



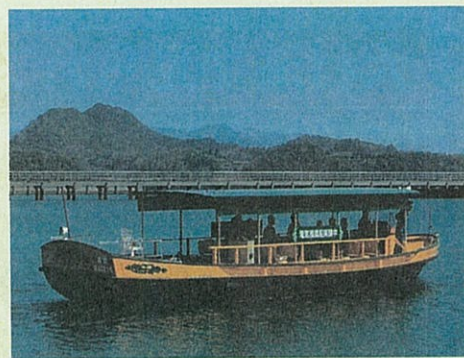
ハウステンボス (佐世保市)

平成19年10月、全国6ヶ所の次世代エネルギーパークのひとつとして、「長崎次世代エネルギーパーク」が国(経済産業省)から認定を受けました。

その舞台となるハウステンボス(佐世保市)では、この春、次世代型太陽電池を採用した大型太陽光発電設備(次世代型では国内最大級)を設置します。また、関連の展示施設を設け、エネルギーを創り、供給し、消費する「エネルギーの地産地消システム」を体験することができます。さらに、県内の企業や大学、行政と共同で開発中の太陽光パネルを

搭載した電気推進船の実証実験も行っており、11人乗りの旅客船「ソーラーカナル」と2人乗りのレジャー船「ソーラーボート」の2隻で、従来の石油や石炭などの化石燃料を全く使用しない新しい乗り物の実現に向けた取り組みをはじめています。

今後、ハウステンボスを舞台に計画に基づく様々な取組みが展開されていきます。この春(3月24日(火))、ハウステンボスにオープンする長崎次世代エネルギーパークで、環境にやさしい発電システムを体験してみませんか。



ソーラーカナル(電気推進船)

©ハウステンボス/J-11547

スナメリはく製・骨格標本が完成しました。(大村市環境保全課)

平成19年2月に、大村市の海岸に漂着し、製作が進められていたスナメリの標本がこのほど完成し、1月に開催した「清掃センター搬入品のもったいない大抽選会」のオープニングセレモニーで、お披露目を行いました。標本は、西海パールシーリゾート所有のものと同様に、はく製と骨格の2種類を製作しており、大村市コミュニティセンター(市役所横)の1階ギャラリーに展示しています。(入場無料)

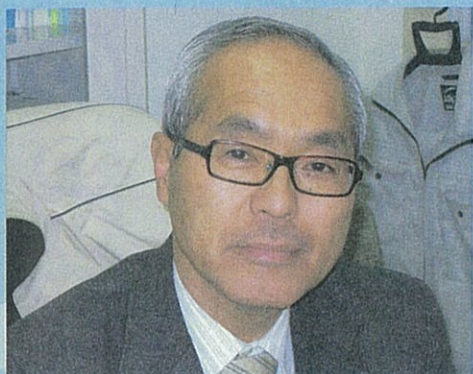
大村市では、標本を公開展示することにより、大村湾に棲息するスナメリをはじめとする自然動物等を含めた環境保護の重要性を広めていくとともに、今後は環境学習等の教材として、広く市民に対し活用していきたいとのことです。



完成したスナメリはく製を見る来場者



大村湾にくらす



松田孝成 組合長

「大村湾の美味しい魚を、多くのひとに食べてほしい。そして、ふるさと大村湾の大切さを、より多くの人に知ってほしい」と話す大村湾漁業協同組合（時津町）の組合長、松田孝成まつた たかしげさんをご紹介します。

「生まれも育ちも大村湾（長与町）、子どもの頃から暇があれば、磯遊びや魚釣り、貝拾いをして、収穫する喜びを味わってきました。」と話をしながら、魚がたくさん獲れ、豊かだった頃の大村湾が、子どもの頃の懐かしい思い出とともに、よみがえります。海のすばら

しさを感じていたいと、昭和40年に、長崎県信用漁業組合連合会に就職、県内各地の漁協婦人部の方々と、石けん普及運動などの海の環境保全や地域を元気づける活動に取り組んでこられました。そして、平成13年7月に、大村湾漁業協同組合の組合長に就任され、現在に至っています。組合長になられて、まず、最初に取り組んだことは、組合員（漁師）の手による朝市の開設でした。「大村湾で有名なものは、ナマコ、シャコ、イダコなどですが、あまり知られていない雑魚の中にも、美味しい魚があります。そういったものを、まず、地元のひとに知ってもらいたい。」それが朝市を始めた動機とのこと。平成19年7月には、念願だった直売所を漁協内にオープンさせました。直売所には、大村湾の活鮮魚をはじめ、県内産の水産加工品、近くでとれた農産物など、地元産にこだわった食材が並びます。「漁協の組合長として組合員の生活を守りながら、恵み豊かな大村湾のすばらしさを発信すること、そして、それを次の世代に引き継ぐことが私の仕事です」と話す松田さん。子どもたちが海とふれあう機会が少なくなってきたことで、子どもたちを対象とした海の体験学習の実施にも力を入れています。



漁協内の直売所のような様子



訪問した小学校の様子

カンボジア訪問記

(前月号でご紹介したコミュニティ時津からの報告です)

昨年12月に予定したカンボジア支援訪問は、タイの空港閉鎖事件のため、年明けて1月13日から出発、5日間の活動を終え18日に帰国しました。当地では、みなさまから寄付をいただいた鉛筆やノートを小学生にプレゼントしたほか、紙芝居や日舞などで交流を深めました。活動の様子は、ホームページをご覧ください。

<http://togitu.blog65.fc2.com/>

平成20年12月に、リニューアルオープンした 長崎空港(大村市)



大村湾のおすすめスポット

長崎空港を利用しましょう(長崎空港ファンクラブ)

わたしたちは、身近な空港である長崎空港を、これまで以上に利用していただき、航空路線網の拡充を進めることにより、ますます快適で便利な長崎空港の実現を目指しています。

「長崎空港ファンクラブ」(長崎県地域振興航空基金)では、メール会員を募集しています。(入会金・年会費不要) 格安旅行プランやキャンペーン・会員特典等、お得な情報を皆様にお送りいたします。詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://www.nagasakiairport-fc.com/index.html>



長崎空港は、大村湾に浮かぶ^{みしま}箕島を埋め立てた世界初の海上空港として、昭和50年に誕生しました。本土との間は、長さ970mの^{みしま}箕島大橋により結ばれています。昭和54年9月には中国(上海)定期便が初就航し、国際空港としての第一歩を踏み出しました。その後、3,000m滑走路への拡張や、国内線・国際線ターミナルの増築を重ね、現在に至っています。

平成20年12月には、空港ターミナルビルが改装され、売店や飲食施設も充実し、明るく、利用しやすくなりました。また、屋上緑化、断熱塗装、太陽光発電や照明機器の省電力化など、環境にやさしい空港づくりもすすめています。

大村湾の美しい自然をながめながら、うらかな春のひとときを、長崎空港で過ごしてみませんか。なお、空港ターミナルビルの施設見学も実施しています。

(お問い合わせ) 長崎空港ビルディング (電話) 0957-52-5001



大村湾周辺にお住まいの
皆様の情報誌です。

フナメリ かわら版

2009年
春
Vol.19

平成21年3月発行
編集・発行/長崎県環境政策課
〒850-8570 長崎市江戸町2-13
TEL 095-895-2355
FAX 095-895-2566

大村湾に関する環境情報を提供してください。

- 長崎県環境政策課 ◎電話 095-895-2355 ◎FAX 095-895-2566
◎E-mail omurawan@pref.nagasaki.lg.jp
- 長崎市環境保全課 ◎電話 095-829-1156 ◎FAX 095-820-0316
- 佐世保市環境保全課 ◎電話 0956-26-1787 ◎FAX 0956-34-4477
- 諫早市環境保全課 ◎電話 0957-22-1500 ◎FAX 0957-22-9137
- 大村市環境保全課 ◎電話 0957-53-4111 ◎FAX 0957-54-0404
- 西海市環境政策課 ◎電話 0959-37-0065 ◎FAX 0959-23-3101
- 長与町環境対策課 ◎電話 095-883-1111 ◎FAX 095-883-2061
- 時津町住民環境課 ◎電話 095-882-2211 ◎FAX 095-881-2764
- 東彼杵町町民課 ◎電話 0957-46-1111 ◎FAX 0957-46-0884
- 川棚町町民生活課 ◎電話 0956-82-3131 ◎FAX 0956-82-3134
- 波佐見町保健衛生課 ◎電話 0956-85-2111 ◎FAX 0956-85-2337